

---

# - 科学者の反逆記 -

機械王

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

- 科学者の反逆記 -

### 【Nコード】

N7188X

### 【作者名】

機械王

### 【あらすじ】

軍事科学者が兵器の世界に己を向かわす。ブリタニアへの反逆を視野に入れて今日も改造と改良を重ねる。 - 科学者の反逆記 - 始まります

なに俺が転生だと？（前書き）

始まります

なに俺が転生だと？

「おい、どつという事が説明しろ」

「いや、私のミスで貴方を殺しちゃったのよ」

「ふざけるな、まだ造りたいものが有ったのに。ミサイルとかミサイルとかミサイルとか」

「ミサイルばかりなのね」

「地球の科学力じゃそれぐらいしか造れんだろうが」

「そう、でも貴方を殺した事について反省はしているけど後悔はしていないわ」

「何故そこでネタ出した!？」

「神ですから」

「いや精々神（笑）だろう」

「精神壊しましょうか？」

「すみませんでした」

「全く話が進まないわ。一応もう一度始めから話すわね」

「読者が理解していないからな」

「それより読者が居るのか疑問だけどね」

「メタ発言するな」

「はいはい」

「軽く流された!?!」

「まあ、長くなっただけどもう一度説明するわ。貴方は私のミスで死んだ。そこまではOK?」

「ああ」

「貴方はまだ生きたいし私はミスを消したい。そこで提案がある」

「何だ?」

「転生してみない?」

「転生つて二次小説でよくあるあれか?」

「そうよ」

「出来んのか」

「ええ」

「俺tueeeeeとかは?」

「それは無理よ」

「特典は？」

「3つまで」

「行く世界は？」

「コードギアス」

「俺の原作知識が唯一ある作品だな」

「で、特典はどうする？」

「一つ目は性別は男（男の娘ではない）で容姿はリリなのsttの  
ジェイル・スカリエッティの髪を黒くした感じで」

「許可します」

「2つ目は技術チート」

「許可します」

「3つ目は不老不死」

「無理よ」

「じゃあ不死は？」

「許可します」

「以上だ」

「分かったわ、じゃ転生させるわ」

「ああ、じゃあな」

「よい人生をね」

シユン！

「ふう、貴方はどういう人生を送るのかしらねえ、」

「機柳 鋼」

なに俺が転生だと？（後書き）

設定が次



## 主人公設定（前書き）

設定

## 主人公設定

名：機柳 鋼

歳：30

職：科学者

性：男

一人称：俺

神に転生の話を持ち掛けられ、承諾してこの世界へと送られた。容姿はモロに『魔法少女リリカルなのはs t s』のジエイル・スカリエッティ。違うところは髪と目の色が黒なのと髪が短く切っている所である。この世界では朝比奈省吾の幼なじみ（といっても主人公が年上）として誕生。藤堂、仙波、千葉、占部との面識有りで現在は桐原公の所に居る。原作知識があるがあまり使わない。日本人でナイトメアの実用性を示し、桐原公を説得。以後ナイトメアを桐原グループの研究所でナイトメアを改造っている。

能力：技術チート

コードギアスのあらゆる機械のことを知識で知って理解している。現在はその気になればガウエインぐらいは造れるが面倒なので造らない。

不死

死なない、絶対に。老いるけど

## 主人公設定（後書き）

もう転生するんですか？

俺の人生の日々(前書き)

別段、面白い事は無いですね

## 俺の人生の日々

「で、神は何がしたいんだ」

や、どうも前回の話の主人公機柳鋼です。前回の話で察してくれろと助かるけど俺は転生しました。コードギアスの主人公近辺のオリキャラとして出ると思ってましたがそうじゃ無かったです。

「鋼！」

「おや省吾しやうごじゃないか」

「その様子じゃ何ともないみたいだな」

「見ての通りさ」

「鋼は何処の所属になったんだ？」

「兵器関係だな。そっちは？」

「藤堂さんの部下だよ」

「ああ、あいつの部下だったっけ。ま頑張れ」

「あいつって　　まあいいか」

「で、局面はどうなってる？」

「制空権が取られた」

「ほほう、じゃそろそろ本土決戦だな」

「ああ、そうだね」

「死なないように頑張れよ」

「そつちこそ僕達が死なないような物を造ってくれよ」

「ああ、分かってるって」

「本当か？」

「本当さ」

今、俺と話している人間の名前は朝比奈あさひな 省吾しょうご。つまり、かの有名な『奇跡の藤堂』の直属だ。まあ、まだ巖島の奇跡は起こってないけど。俺はこの世界に普通の家庭に転生して（成長段階はめんどくさいので書かない）様々な事を学んだ（主に兵器関連だが）。元々技術チートが有ったから今では道具と材料さえ揃えばランスロツトぐらいは造れる。はずだ。なんせ一度も試したことが無いからな、ばれたら困るし。

「で、省吾。直で戦場に出たお前なら分かると思うがあのブリタニアのグラスゴーとやらについてどう思っているか聞かせてほしい」

「分かった。率直にいうとアレをただの玩具として扱ってはいけ無い。これからの奴らの実戦兵器になるだろうな」

「ふむふむ参考になった。有難う」

「でもどうするんだい？こんなことを聞いて」

「くっくくく、アレを利用しようかと思ってね」

「成る程、目には目をか」

「そうだ。というわけで省吾、一機盗ってこい」

「また無理難題を」

「これからの日本にはそれが必要だ、頼む」

「分かったけど、期待はしないでね。僕の上官は藤堂さんなんだから」

「ああ、分かってるよ」

「じゃあまた」

「ああ、またな　そろそろ原作が始まる。その前に京都六家に話しをしとかないとな」

あの老人共に借りは作りたくないんだけどなーとか言いながら俺は家に帰った。

俺の人生の日々(後書き)

次回は説得をします。



京都六家（桐原公）の説得（前書き）

説得に入ります。

## 京都六家（桐原公）の説得

「で、何のようでワシを頼って来た？機柳鋼」

今、俺はある男と話しをしている。その名前は桐原。戦後に主人公であるルルーシュ・ゼロが率いる黒の騎士団を支援した男であり主人公がブリタニア人であることを知っている人物の一人。日本最大級の派閥、桐原派のトップであり喰えない狸。今日、俺はこの男に援助を申し出た。曰くあの兵器関連で、だ。

「いやはや、桐原公に私の名前を覚えてもらっているとは光栄。

まあ、世辞は置いときましょう。今回の私の目的は資金援助です。」

「資金援助じゃと？」

「はい。桐原公、かなり前からブリタニアはナイトメアという戦略兵器を使っておりこちらの軍が次々と撃破されております。先日、戦いで藤堂鏡志郎が厳島で奇跡（という名の戦術的勝利）を日本軍に見せました。然し誰もが奇跡を起こせるわけではありません。そこであちらの兵器をこちらにも利用してブリタニアを撃破しようと思いました。が何分資金が無いのでこうして京都六家の一つである桐原家当主の桐原公にお願い申し上げ此処に参上した次第でございます」

「（こやつ、ワシの言おうとした事を全て先読みして言ってきたおる）ふむ、なかなかの意見じゃが今ひとつ足りんのう」

「おや、何が足りないのでしょうか？」

「その事について一つ聞きたいことがある」

「何でしょうか」

「日本は負けるか？」

「はい、少なくとも1〜2年の間に」

「聞いている身でなんじゃがその発言は御主にとって不利になると  
思わんのか？」

「桐原公がそう思えばそれでも構いません。然し私はそうだとは思  
いません」

「ほう、これは高く買われたものじゃ」

「」

「それで？勝算はあるのか？」

「十中八九。ただこの先、機会があればの話ですがね。ですが私  
は一矢報いたいですよ、それこそ藤堂鏡志郎みたいだね」

「」

「さて、御返答は如何に？桐原公」

「分かった、機密扱いにしておく故にの。制作も我がグループが全  
力で支援する、それで良いな？」

「有難うございます、ではこれにて失礼します」

「ふう、奴ならばやってくれるかのう。ワシが夢見た日本のブリタニアへの反逆を」

「うまくいった、これでナイトメアが造れる。幸い省吾が約束を守ってくれたし」

そう、昨日俺の所属している所にKMF：グラスゴーが届いたのだ。これで全ての条件は揃った。

「さあ、始めるぞ！俺のブリタニアへの反逆を！」

その時に「煩い」と言われたのは後々に語られた笑い話である。

京都六家（桐原公）の説得（後書き）

改造こそ主人公の生き様です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7188x/>

---

- 科学者の反逆記 -

2011年10月19日08時14分発行